

熱意は国境を越えて～市民海外派遣・各コース団長からのメッセージ～

今年で21回を数える市民海外派遣事業は、6月に実施した英語スピーチコンテストと公募試験（中学生のみ）の優秀者71人がアメリカ、オーストラリア、中国の3カ国に渡りました。参加者を代表して各団長の感想文を紹介します。



中国コース
 団長 ● 横溝舞奈さん
 (中山中3年)

よく学び、楽しかった7日間

この中国への海外派遣を終えて感じたことは、とても貴重な体験をすることができたということです。

世界遺産にも登録された、古い町並み麗江古城を見て歩き、どこかの時代にタイムスリップした気分を味わったり、お寺へ行ってたくさんの神様が祀られている中で、この像の手に触れると頭が良くなるという像に触ったりと色々な物を見て、触れて、感じる事ができました。

また、現地の学生と交流し、一緒に折り紙を折り、英語で会話もすることができました。私たちにとって、とても良い経験になりました。

海外なので、日本とは違う料理や生活など、少し合わなかったところもありましたが、この派遣期間中で、その国特有の文化を学び、楽しみ、本当に行って良かったと思える中国海外派遣でした。



友好都市麗江市を訪問し、世界文化遺産の麗江古城を見学



オーストラリアコース
 団長 ● 平岡えみさん
 (高山西高校2年)

Thank you my daughter

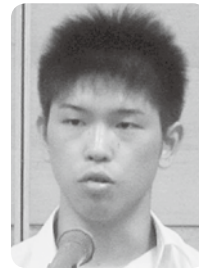
私は、オーストラリア派遣というめったにない機会をいただくことができました。

現地では、キュランダ村やグリーン島を散策したり、学校訪問をしました。中でも私の心に一番残っているのは、ホームステイです。文化や習慣の違いから戸惑うこともありましたが、短い時間で多くのことを学んだ4日間でした。ホストファミリーと積極的に会話できたことは、私の誇りです。会話の中で、自分の意思を伝える大切さを学びました。お別れの時、「Thank you my daughter」と言われました。本当の娘のように思ってもらえたことを知り、とても嬉しかったです。

私が将来進みたい道はコミュニケーションが大切になってきます。色々な人とコミュニケーションをとる方法の一つとしてこれからも英語を学び続けたいです。



ホームステイを通じて、オーストラリアの文化や生活習慣を学びました



アメリカコース
 団長 ● 尾形成宏さん
 (妻太高校1年)

アメリカから見た日本

私は今回の研修では文化の違いの発見が目標でした。アメリカでの食事や服装などはさほど違いは無く、文化の違いは意外なモノだったので。

私は普段、家族との外出でも運転してくれた人に感謝を込めて、目的地に着くとお礼を言います。ホームステイ先でも同様に礼を言った際、アメリカでは家族内で運転した人に特にお礼は言わないことを教わりました。

私はこのとき、アメリカと日本の文化の違いを感じました。感謝の気持ちを大切にできる精神や、相手を敬うことこそが日本の誇るべき文化だと思いました。

食事や生活様式、服装などは外国と均質化していますが、日本の本当の文化は内面的な情緒にあったのです。

だから僕は日本人であることを誇りに思い、この文化を大切にしていきたいです。



姉妹都市デンバー市を訪問し、マイケル・ハンコック市長と記念撮影

問合先

申込先
 環境政策推進課
 TEL 35-3533
 FAX 35-3169
 Mail: kankyouseisaku@city.takayama.jp

TEL・FAX

申込方法 ● 10月12日(金)までに
 参加料 ● 無料
 定員 ● 20人(超えた場合は抽選)
 泉郷(中尾)
 場所 ● 新穂高周辺(奥飛騨温泉郷)
 時間 ● 午前9時～午後3時
 期日 ● 10月27日(土)
 対象 ● 市内の小学生とその保護者を巡ります。

新穂高温泉から左俣谷溪流沿いの林道を歩きながら、飛騨山脈の眺望やブナの巨木を巡ります。

市では、郷土の豊かな自然を体感し、その保全に関わる確かな知識を学んでいただくため、地元の環境団体の協力を得て『飛騨高山・山の自然学校』を開講します。

